学際的単元　Interdisciplinary unit (社会科＋理科)

持続可能な社会をめざして　－水俣病を社会科の側面から考える－

社会科　古家正暢

１．はじめに

　より具体的な資質・能力（例えば、コミュニケーション力）の育成を見ることはできないか。アクティブ・ラーニング(AL)が叫ばれる現在、もっと生徒が活動する場面・時間を確保する必要があるのではないか等の声をいただいた。そこで、次の２点を中心に授業改善を図った。

(1)　グローバル化社会に生きる資質・能力として、「問いを立てる力」に着目し、生徒による「問いかけ」「質問づくり」を核とした授業を創造することとした。

(2)　司書の協力のもと、水俣病を理解するための「課題図書」を選定し、いつでも閲覧可能な状態とするとともに、各自最低一冊は読み込んで授業に参加するよう促した。

　　〇石牟礼道子『苦海浄土』　講談社文庫　2004

　　〇三枝三七子『よかたい先生』　学研　2013　　＊帰国生むけ

　　〇津田敏秀　『医学者は公害事件で何をしてきたのか』　岩波現代文庫 2014

　　〇原田正純　『水俣病』　岩波新書　1972

　　〇東島　大　『なぜ水俣病は解決できないのか』　弦書房 2010

　　〇藤崎童士　『のさり』　新日本出版社　2013

　　〇政野淳子　『四大公害病』　中公新書 2013

２．単元の概要

2.1.単元設定の理由

　初めて水俣を訪れた2014年秋、水俣病受難者である故:杉本栄子さんのコトバに出会った。「知らないのは罪　知ったかぶりはもっと罪　嘘言う人はもっともっと罪」衝撃であった。社会科教師であれば、四大公害について授業をしたことのない者はいない。しかし、そこで何を教えていたのか。公害の名称・原因物質・関係企業名を暗記させることに留まってはいなかったか。

そこで、今回は理科教師と共にホリスティック(総合的・全体論的・全連関的)に水俣病の実相に迫るため学際的単元(Interdisciplinary unit)として、本実践に取り組むこととした。

2.2.単元の指導計画

事前学習　 課題図書購読　水俣病をキーワードとするConcept mapの作成

第1時　　日本の高度経済成長

　第2時　　水俣病事件の実相を知る

　第3時　　水俣病は「文明社会の宿命としての危険」か「のさり（天からの授かりもの）」か

　第4時　　水俣病認定基準と「いのち」　（「関川水俣病」と水俣病の1977年基準）

　第5時　　『質問づくり』　　　　　　　　　　　　　＊単元の振り返りを兼ねる　…　本時

「質問の焦点」　水俣病受難者の「いのち」にまっとうに向き合う

　第6時　　本単元の振り返り

事後学習　 エッセイ「みんなで作った問いへのレスポンス」

2.3.単元（社会科）の本質的で根源的な問い　Essential Question

 人間にとって、大切なものって何なのだろう…

３．本時の授業展開

　キーワード　「水俣病」　「のさり」　「支援」　　　　　　　　＊「質問づくり」

|  |  |  |
| --- | --- | --- |
|  | 学習活動 | 教　師　の　指　示 |
| 導入5 | 『質問づくり』の留意点を確認 | ○今日は「えんたくん」に質問を記入します。○質問の焦点は「水俣病受難者の『いのち』にまっとうに向き合う」です。○「閉じた」質問ではなく「開いた」質問を考えます。 |
| 展開45 | 個人作成班協議クラスで質問を共有みんなで作った問い　へのレスポンス | ○質問を数多く作成し、終了後に自らの質問に優先順位をつけます。○優先順位1番をつけたものを班で共有します。このとき、質問の意図・補足説明を十分に行います。　○班の話し合いで、班No.1と思われる質問を選びます。○各班で選ばれたNo.1の質問を、みんなに質問の趣旨が伝わるように補足説明を加えつつ発表してください○さぁ、みんなで作った問いへのレスポンスです。　　自分の思い・考えを述べてください。 |

４．授業を終えて

　本時は、私のこれまでの授業スタイルを180度転換させ、教師が生徒に問いを投げかけるのではなく、生徒自らが本単元を振り返って質問をつくる形式をとった。その質問に対して、クラスみんなで答えを探すこととした。生徒はこれまでの学習内容および課題図書の一節を引用したりして可能な限りのレスポンスをしようと努めていた。